

都市と中山間地域の交流・連携 の視点から見たエコツーリズム のあり方についての研究

立命館大学政策科学部教授 佐々木 雅 幸
 金沢工業大学環境システム工学科助教授 敷 田 麻 実
 パシフィックコンサルタンツ(株)新事業開発本部NPM開発室 森 重 昌 之
 石川県保健環境センター情報・教育研修室 新 広 昭
 石川県環境安全部自然保護課 梅 典 雅

析を通じて、石川県白山地域でのエコツーリズムの導入可能性を検討する。

．緒 言

第二次世界大戦以降、わが国は未曾有の経済発展を遂げてきたが、今日では“ゆとり”や“くつろぎ”など、生活の質の向上が求められている。しかし、急速な少子・高齢化の進行などによって、すでに地域の存立基盤の維持すら困難な中山間地域も見られる。こうした社会環境の変化の中で、1998年3月に新しい全総計画である「21世紀の国土のグランドデザイン」が閣議決定され、「参加と連携」がキーワードの1つとして掲げられた。その中では、都市との交流を通じて地域社会の活性化を図る産業として観光が重視され、定住人口の補完や地域経済の活性化、人々のふれあい機会の創出などの役割が観光に求められた。

一方、近年のわが国の観光動向を観光白書から捉えると、余暇時間は増加傾向にあるが、景気の長期低迷などで、観光客数、宿泊数、消費額とも低調に推移している。また、観光地での旅行者の行動は「温泉などでの休養」や「自然風景鑑賞」が依然として多いが、一方で体験型の旅行や中高年世代の個人旅行が人気を集めている。こうした状況から、今後は高齢者の観光関連活動との関わりやインターネットを活用した交流機会などの増加が予想される。そして、中山間地域では、都市住民の自然志向を地域振興に結びつけるエコツーリズムへの期待が高まりつつある。

そこで、本研究ではエコツーリズムの実現過程の分

．観光の一形態としてのエコツーリズム

1．エコツーリズムの誕生とその経緯

近年、「エコツーリズム (ecotourism)」という言葉が観光パンフレットなどに頻繁に現れるようになったが、エコツーリズムはいつから注目されるようになったのであろうか。Grenier et al. (1993)によると、「1965年にHetzerによって示された生態学的観光 (ecological tourism) がその創始である」とされている。その後、Budowski (1976) が「環境と観光の関係には両立 (coexistence)、対立 (conflict)、共生 (symbiosis) がある」として、両者の間に相互の利益が保障される状態があることを述べたが、1980年代までは他に目立った研究はなかった。結局、エコツーリズムが一般化するのは、パンフレットやマスメディアなど観光分野で日常的に使用され始めた1980年代である。佐藤 (1990) やWilliams et al. (1992) も、1980年代に入って自然環境に関心を持つ観光が注目を集めたと述べている。

エコツーリズムの誕生の背景について、Boo (1992) は自然保護分野と観光産業分野の両方の要望が一致した結果だと分析した。自然保護分野からは、開発と自然保護の調和や、自然保護に対する経済的インセンティブの設定に対する要望があった。また逆に、観光産業分野からは、観光資源としての自然環境の再